

2024.04.24

# オンライン講座

精神医学（各論）\_5\_神経発達症群\_1



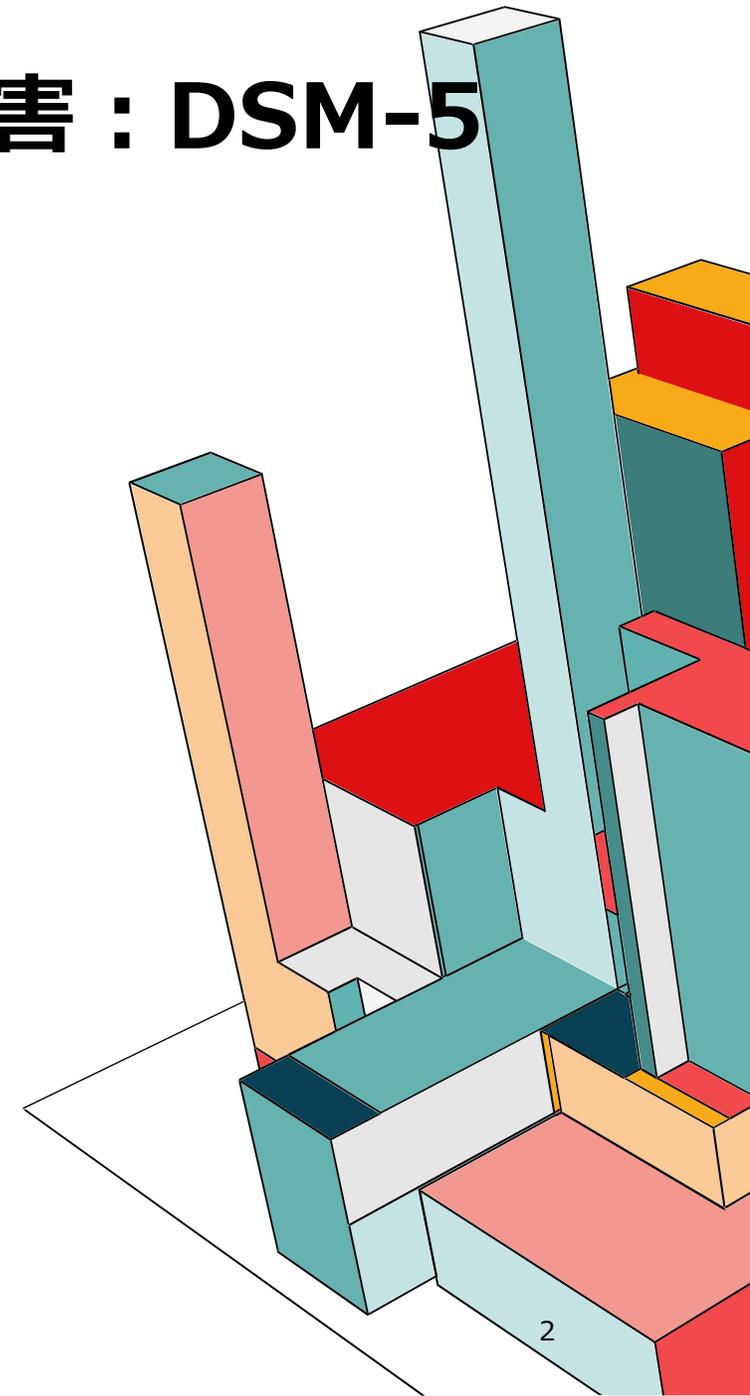
もりさわメンタルクリニック

# 知的発達症：DSM-5-TR 知的能力障害：DSM-5

DSM-5での診断基準

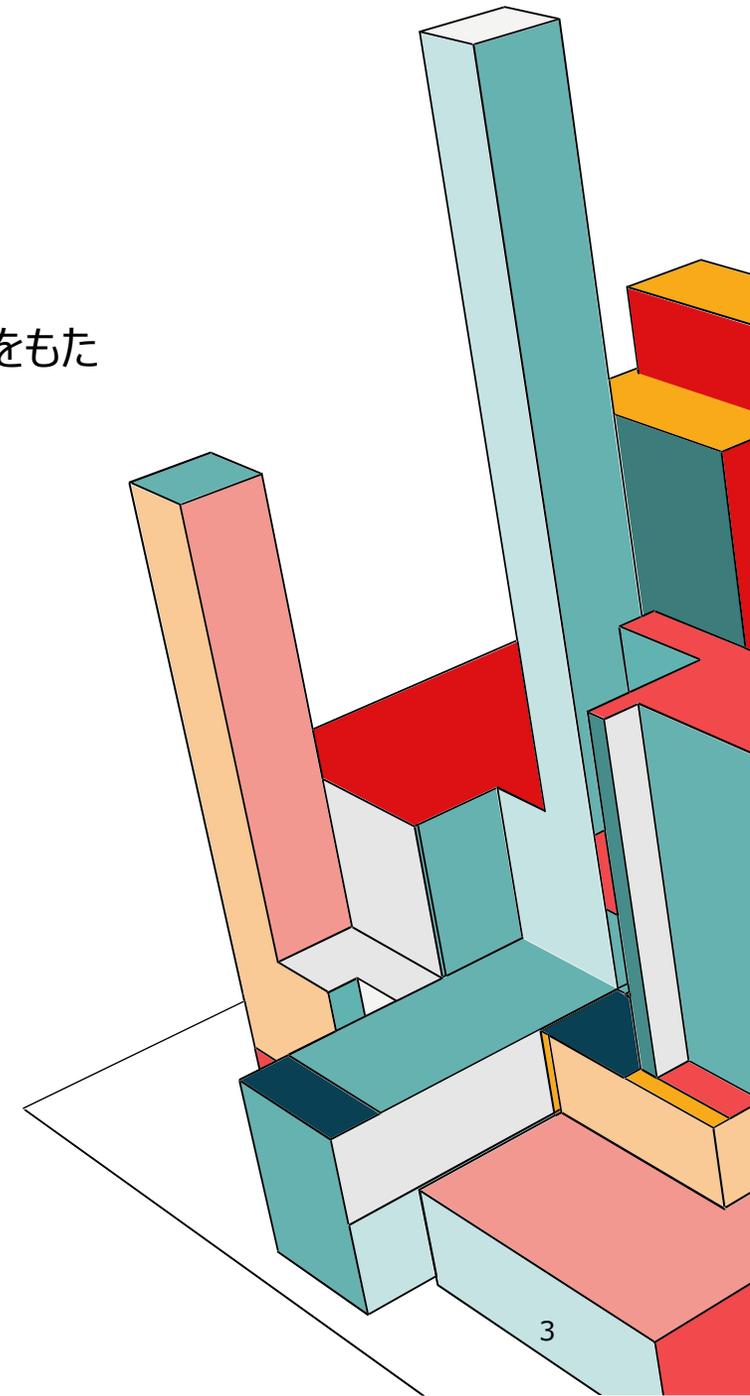
- A. 臨床的評価および知能検査で確認される知的機能の欠陥
- B. 発達のまたは社会文化的な水準を満たすことができないという適応機能の欠陥
- C. 発達期の中の発症

※参考：精神遅滞とIQ（16歳以上：WAIS 16歳未満：WISC）



# 知的発達症の原因\_1

- ①生理因：正常変異に由来する神経発達の低水準への偏位
- ②病理因：病的遺伝子、染色体異常、胎生期・周産期・出生後に脳に病的変化をもたらす原因
- ③心理・社会因：未開社会や隔離された環境、長期の不適切な養育



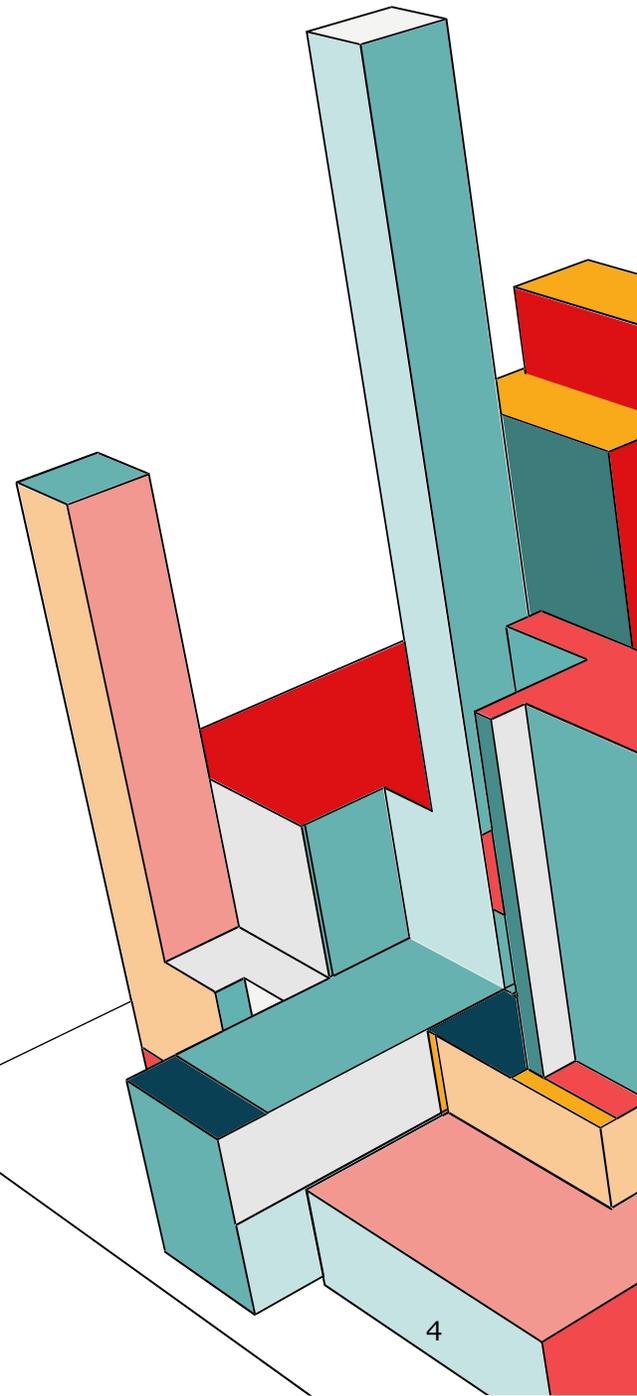
# 知的発達症の原因\_2

## 病的遺伝子

フェニルケトン尿症：知的発達症の背景にある先天的な生化学的異常が遺伝形式とともに初めて解明された疾患で、知的発達症研究のモデルの役割を果たした点でも重要。人口6-7万人に1人。フェニルアラニン水酸化酵素の機能不全によりフェニルアラニンが蓄積する。症状として知的発達症、けいれん発作、色素不足などがある。新生児マススクリーニングの対象疾患で、特に6ヶ月未満で発見しフェニルアラニン制限食を開始すれば、知能発達の改善が見込める。

## 染色体異常

ダウン症候群：出生1000人に1人、知的発達症の6～12%。常染色体異常（No.21 trisomy）によって起こることが明らかにされ、知的発達症研究の一つの契機となった。特に45歳以上の出産では出現率が高まる。知能は中等度の知的発達症、短顔・低い鼻・外上方につり上がった目じり・緩んだ口元などの顔貌、太く短い手指などの身体的特徴をもつ。

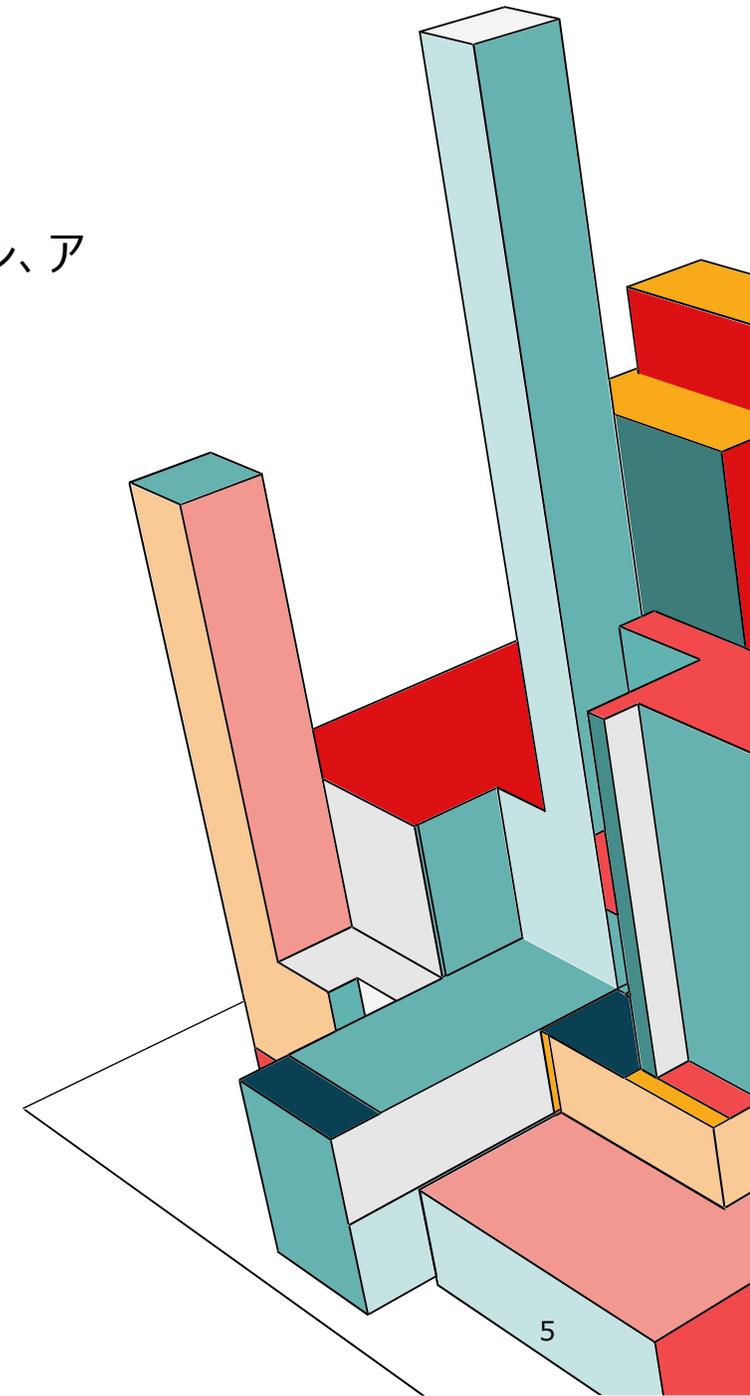


# 知的発達症の原因\_3

胎生期：感染症（風疹、梅毒、トキソプラズマ） 中毒症（有毒ガス、薬物、ニコチン、アルコール）、栄養障害、妊娠高血圧症候群

周産期：出産障害、高ビリルビン血症（核黄疸）

出生後：感染症や外傷など



# 「発達障害」という言葉の意味について（現在、「神経発達症」）

狭い意味の「発達障害」= 自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如多動症（ADHD）、  
限局性学習症（SLD）とその周辺の障害

広い意味の「発達障害」= 狭い意味の「発達障害」+ 知的発達症

※その他DSM-5-TRの神経発達症群には、コミュニケーション症群（児童期発症流暢症：吃音等）、運動症（発達性協調運動症等）が含まれる。

